Ⅰ　東部振興構想策定にあたって

１．策定の趣旨

全国において、人口減少、少子高齢化の進行が加速しており、本市においても例外ではありません。特に桃花台ニュータウンが位置する東部地域（篠岡地区）においては、桃花台ニュータウン周辺部の既存集落の人口は微減であるものの高齢化は進行しています。桃花台ニュータウンでは、人口減少に加え、高齢化の進行が急速に進んでいる状況です。さらに今後、コミュニティ活動などの活力が衰退することに加え、空き家の増加等による居住環境の悪化が懸念されています。

この桃花台ニュータウンは高度経済成長期に名古屋都市圏の住宅市街地（純住宅）として整備された歴史をもつことから、道路や公園などのインフラは充実する一方、居住区域の土地利用は制限されています。

東部地域における産業面での特色としては、２つの工業団地への立地をはじめ、多数の企業が進出しており、中でも製造業や運送業などの多い業種構成となっています。こうした状況の中、近年ではベンチャー企業などの起業や ICT の普及による在宅勤務などを行いやすい環境整備も求められています。

農業については、桃やぶどうなどの栽培が盛んな地域特性を有していますが、核家族化の進行の影響などにより、後継者不足等の課題を有している状況です。

このような背景を抱える東部地域が、持続的に発展し続けるまちとするためには、桃花台ニュータウンとその周辺部の既存集落や企業・事業者などのコミュニティが一体となり、様々な形で連携することにより、諸課題を克服するとともに、多様な地域資源を活用し、東部地域全体の魅力を高める必要があります。

今後の東部のまちづくりは、地域住民をはじめ、事業者、行政など関係者が共通認識を持ち、夢と希望をもって取り組むことが重要であることから、東部まちづくりに関わる全ての人たちの行動のみちしるべとなるよう「まちの将来像」や「ヴィジョン」を明確とする『東部振興構想』を策定するものです。

2．構想の構成

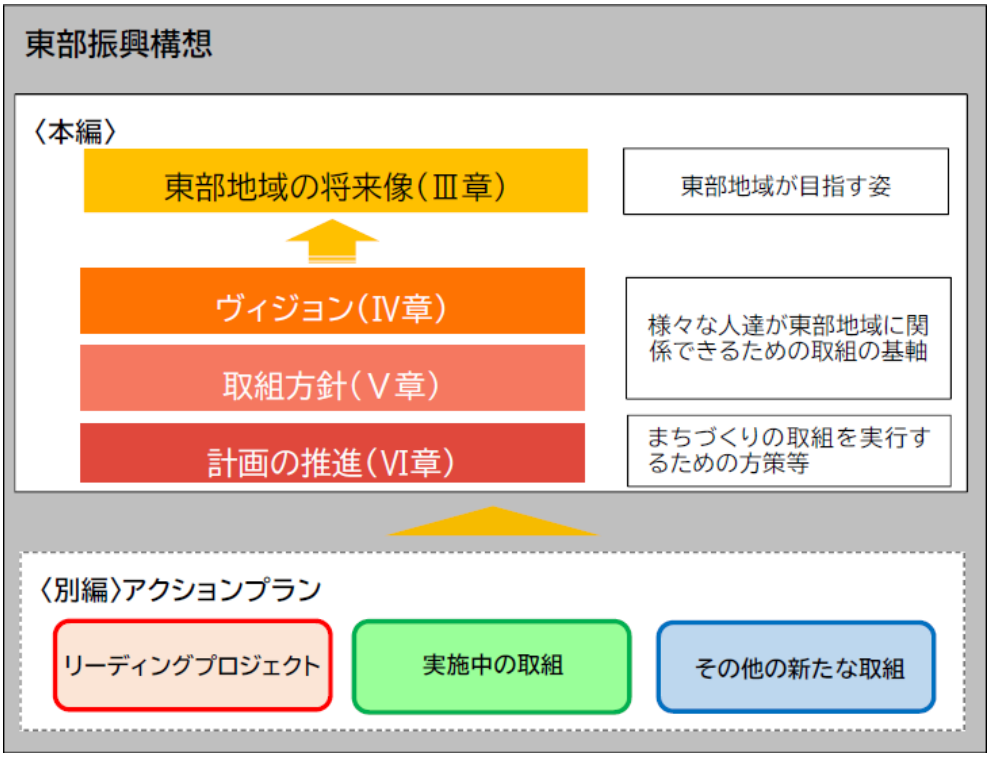
東部振興構想は、まちの将来像などを示す「本編」と、具体的な取組をまとめる「アクションプラン」に大別されます。

まず、本編では、東部地域のまちづくりが目指す姿を表す「東部地域の将来像」、様々な人達が東部地域に関係できるための取組の軸として「ヴィジョン」及び「取組方針」を示します。また、取組方針に紐づく各取組の内容を表す「取組の方向」も併せて示します。

さらに、それらの実現に向けて、まちづくりの取組を実行するための方策等を示す「計画の推進」で構成されます。

次に、３ヵ年の具体的な取組をまとめるアクションプランは、東部地域のまちづくりを先導的に進める「リーディングプロジェクト」、既に取り組んでいる「実施中の取組」、その他の新たに実施するプロジェクトである「その他の新たな取組」の３つのカテゴリーで構成します。また、アクションプランは、様々な状況の変化に対応するため、柔軟かつ可変的に改善を図る必要があることから、毎年度見直しするものとし、本編とは別で定めることで実効性を高めます。

図　東部振興構想の構成



※リーディングプロジェクトとは
①新たに実施する取組の中でも、東部地域の関係者（住民、事業所、行政など）が連携・協力し、先導的に進める取組。
②これまでに実施している取組をつなげることでより効果的・効率的になる取組。

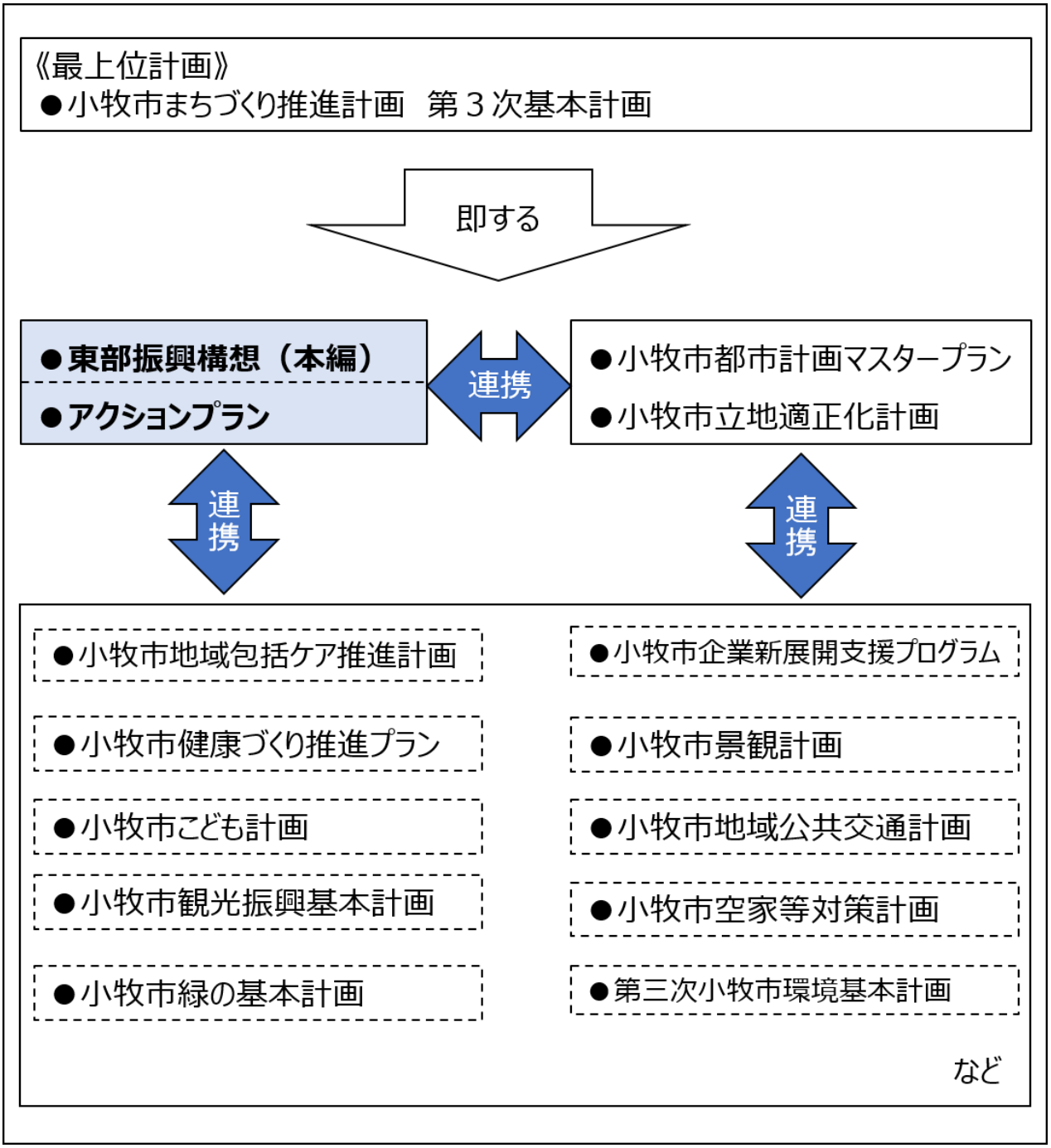
3．計画期間

計画期間は 2022 年度（令和４年度）～2031 年度（令和 13 年度）の 10 年間とし、期間の中間（５年）で見直すこととします。

4．計画の位置づけ

東部振興構想と他計画との関係性・位置づけは以下のとおりとします。

図　東部振興構想の位置づけ

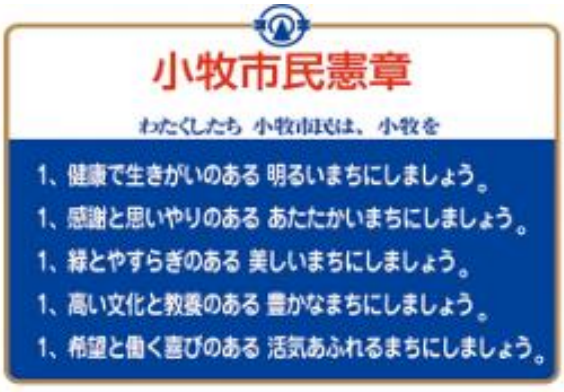


5．関連する理念

東部振興構想は、次に掲げる「小牧市民憲章」、及び市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画 第３次基本計画」に即し、また、小牧市都市計画マスタープランなど他の計画と連携を図った計画としています。

（１）小牧市民憲章

小牧市民憲章は、市民の道しるべとして、健康で明るい生活を送るため、また、市民一人ひとりの心構えや果たすべき役割を明確化し、心ふれあう豊かな社会を形成するために、市制施行 30 周年に制定されました。



（２）こども夢・チャレンジ No.１都市宣言

本市では、市制施行 60 周年に「こども夢・チャレンジ No.１都市宣言」を行い、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、あたたかく支え合うことで、さらに暮らしやすい、魅力あるまちになるという考えのもと、まちづくりを進めています。

こども夢・チャレンジ No.１都市宣言（抜粋）

私たち小牧市民は、

一．こどもの夢への挑戦を応援することで元気になるまち

一．世代を越えて市民のつながりが生まれるまち

一．支え合うことでさらに住みよくなっていくまち

Komaki

このようなまちの実現に向け、小牧市を「こども夢・チャレンジ No.１都市」とすることを、ここに宣言します。

（３）小牧市環境都市宣言

小牧市環境都市宣言は、小牧市制施行 70 周年という節目の年に、今一度、私たちの生活・事業活動を見直し、新たな課題に取り組むことを明言し、豊かで美しい自然を未来へ残すために環境都市宣言を変更し、令和７年５月 18 日に小牧市制 70 周年記念式典にて、宣言されました。

小牧市環境都市宣言（要約）

小牧市環境像「尾張野の 四季の恵みが 実現できるまち」

一、カーボンニュートラルを実現し、持続可能なまちを目指します

一、資源循環を推進し、環境と産業が調和するまちを目指します

一、良好な環境を保全し、自然と共生するまちを目指します

（４）小牧市まちづくり推進計画

「小牧市まちづくり推進計画第３次基本計画（令和９年度～16 年度）は、小牧市民憲章に掲げる理想のまちの実現に向けて策定する市の最上位計画です。計画では、小牧市が目指す８年後の理想像を市民にわかりやすく伝えるため、『ずっと「わたしのまち」こまき』をまちのコンセプトとして掲げ、３つの都市ヴィジョンに込められた考え方を包含した今後のまちづくりの方向性を示しています。

まちのコンセプト	「ずっと「わたしのまち」こまき」

「ずっと」には、生まれ育ったまちという意味に加え、住み続けたいまちや、離れてもふるさととして思い続けられるまち、親しみを感じられる場所という思いを込めています。「わたしのまち」には、小牧市とのつながりや絆、愛着と、まちの未来や課題を自分のこととして見つめるまなざしが表現されています。

都市ヴィジョン１	「こども夢・チャレンジ No.１ 都市」

こどもの夢への挑戦をまち全体で応援していくことで、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、あたたかく支え合い、暮らしやすい魅力あふれるまちをつくっていくことをイメージした都市概念です。

都市ヴィジョン２	「健康・支え合い循環都市」

幸せな高齢社会を実現するために、市民の健康づくりを支援し、支え合いの地域づくりに力を注ぎ、「健康」と「支え合い」の地域内循環を目指す小牧市独自の取組をイメージした都市概念です。

都市ヴィジョン３	「魅力・活力創造都市」

若い世代や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思える魅力ある都市と、経済・雇用・財政の基盤が確立された活力ある都市の創造をイメージした都市概念です。

６．中間見直しの方針

本構想の計画期間は 2022 年度（令和４年度）から 2031 年度（令和 13 年度）までの 10 年間であり、時代の変化に対応するため、計画期間の中間期に見直しを実施することとしていました。

策定から数年が経過する中で、東部地域では人口減少や少子高齢化の進行、若年層・子育て世代の転出、空き家・空き部屋の増加、公共交通や都市インフラの維持、農業・産業の担い手確保、学校再編や公共施設のあり方の見直しに伴う跡地・未利用地の発生など、地域を取り巻く状況が変化しています。

このため、まちづくり５原則、将来像、ヴィジョン及び取組方針は、現行構想を基本として踏襲しますが、最新の現状・課題、関連する理念・視点、これまでの取り組みの進捗を踏まえ、必要な取組内容や推進方法の見直しを行います。